

Welcome to M itoyo!

(財)三豊市国際交流協会 ☎72-1192
http://www.main.or.jp/mitoyo/

7月末から8月初めにかけて、海外友好都市である中国陝西省三原県、韓国慶尚南道陝川郡、アメリカ合衆国ウィスコンシン州ワウパカ市の訪問団が三豊市を訪れ、ホームステイなどを通して交流を深めました。今回の『三豊市国際交流協会からWelcome to M itoyo!』では、彼らの三豊市での様子をご紹介します。言葉や文化が違う者ですが、苦労しながらも意思疎通を図り、共感しあえた時の喜びの笑顔が印象的でした。

中国陝西省三原県 (7月23日～27日)

三原県から12名(引率者3名・研修生9名)の訪問団が訪れ、7月30日から8月4日にかけて三原県を訪問する三豊市の中学生の家庭にホームステイして交流を深めました。滞在期間中、詫間町粟島で海水浴やカッターボートを体験しました。三原県は中国の内陸部に位置するため、海が初めてという子どももいて、日ごろ体験できない海での楽しいひとときを過ごしました。また、歓迎交流会ではこれからの末永い交流を誓い合いました。



韓国慶尚南道陝川郡 (7月27日～31日)

陝川郡から23名(引率者3名・研修生20名)の訪問団が訪れ、ボランティアでホストファミリーを引き受けていただいた家庭にホームステイして交流を深めました。陝川郡とは7月13日に友好都市交流協定を締結しましたが、訪問団一行はこれまで以上に三豊市との友好交流を深めようと、市長表敬訪問の際には、練習してきた日本語で上手に自己紹介をしました。

アメリカ合衆国ウィスコンシン州ワウパカ市 (7月28日～8月6日)

ワウパカ市から12名(引率者3名・研修生9名)の訪問団が訪れ、8月6日から8月15日にかけてワウパカ市を訪問する三豊市の中学生の家庭にホームステイして交流を深めました。滞在期間中、二ノ宮小学校と仁尾小学校を訪問し、両校より温かい歓迎を受けました。また、茶道や書道といった日本の文化も体験し、初めての経験に大変喜んでいました。



シリーズ
No.15

なんなん? 食育

財田町学校給食センター

地場産物を使って給食を

財田町学校給食センターは、平成17年度から地産地消の取り組みに力を入れています。年間を通してお米は財田町産のたからだ米を使用し、季節の野菜(たけのこ、きゅうり、キャベツ、なす、白菜、大根、えのき、エリンギ)や果物(いちご、すいか、柿、キウイ、みかん類)も財田町で作られたものを使用しています。子どもたちは苦手な食べ物も地域の方が作ってくれていると分かると、感謝の気持ちを持って食べています。残菜もほとんどなく、子どもたちの健康面にも大きく関わっています。

メニュー紹介

海草サラダ

材料 (4人分)	キャベツ	130g	A	ごま油	適量
	きゅうり	1本		酢	小さじ2
	刻み昆布	3g		濃口しょう油	小さじ1
	ちりめんじゃこ	大きじ1		赤みそ	小さじ1/2
	いりごま	小さじ1		砂糖	0.3g

財田町のきゅうりや香川県産のちりめんじゃこを使った、野菜をたっぷり食べられる、給食でも人気のサラダです。



作り方

キャベツ、きゅうりは一口大に切り、キャベツは湯通しし、昆布は水でもどす。Aを合わせてドレッシングを作る。とちりめんじゃこ、いりごまを合わせてAのドレッシングで和える。